

科目名	職務の理解				
到達目標	○介護職の働く場の理解を通して、介護職の仕事内容、役割を理解することができる。また、介護職の仕事を理解することで、介護職として働くことを具体的にイメージすることができる。				
指導の視点	○介護職員初任者研修課程130時間の授業全体の内容概要及び到達目標の確認。全体像をイメージし、学習内容を体系的に整理して効率・効果的に学習できるよう指導する。 ○視聴覚教材を使用し、各サービスの特徴や介護職が働く現場や内容を具体的に理解させる。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
多様なサービスの理解	1.0	1.0	0.0	介護保険による介護サービスの理解。 介護保険以外のサービスの理解。	介護保険により居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスの役割や目的を理解する。
介護職の仕事内容や働く現場の理解	5.0	5.0	0.0	介護職の役割と他職種との協働関係を理解する。 介護ニーズへの対応方法、基本的な考え方を理解する。	サービスを利用する利用者の目的と介護職の役割を理解する。 介護職の役割の理解と他職種との協働について理解する。
授業時間数合計	6.0	6.0	0.0		

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援				
到達目標	○介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけないことを理解する。				
指導の視点	<p>○尊厳を守るために、具体的に介護職に求められること、基本的考え方を理解させ尊厳という概念に気付きを促す。</p> <p>○虐待に関するデータ（虐待件数、被害者、加害者の傾向）をもとに具体的な事例を交えて虐待の定義と要因について考え、虐待する人が特別なのではなく誰もが虐待の加害者になり得ることを理解させる。</p> <p>○身体的自立と精神的自立の視点を持ち、自己選択・自己決定を促しながら本人が望む生活が送れるように支援することの重要性と、自立支援が介護予防につながることを理解させる。</p>				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
人権と尊厳を支える介護	6.0	1.5	4.5	介護における人権尊重と基本的視点 虐待、身体拘束に関する基本知識を学び、防止のための具体的行動	介護職の仕事における人権尊重の重要性と基本的視点を理解できる。
自立に向けた介護	3.0	0.0	3.0	介護における自立（自律）支援、介護予防	介護における自立、自立支援について理解できる。 介護予防の視点を理解し、介護職の役割を理解できる。
授業時間数合計	9.0	1.5	7.5		

科目名	介護の基本				
到達目標	<p>○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解している。</p> <p>○介護職は高い倫理性が求められる職業である。それはなぜか、介護職としての倫理の重要性を理解できることを目指す。</p>				
指導の視点	<p>○事例をもとに、「多職種が利用者に関わることで実現できること」を考え、それぞれの専門性を活かすためには、介護職自身の役割を理解していること、どの職種がどのような役割を担うのかを理解していることが必要であることを明確に伝える。連携の目的は、利用者へのよりよいケアであることを強調する。</p> <p>○日本介護福祉士会倫理綱領について説明し判断の拠り所となることを理解させる。迷った時は、「社会福祉士及び介護福祉士法」の義務規定や日本介護福祉士会倫理綱領に立ち返ることを強調する。</p>				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.0	0.0	1.0	介護の専門性と介護職の役割 多職種連携の理解	介護と連携する主な他職種の役割を理解し、多職種連携の必要性を理解できる
介護職の職業倫理	3.0	3.0	0.0	倫理の意味を知り、一般的な倫理と介護における倫理について理解する。	介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等とかわる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
介護における安全確保とリスクマネジメント	1.0	0.0	1.0	介護におけるリスクマネジメントと感染対策	介護におけるリスクマネジメントと基本の感染対策について理解できる。
介護職の安全	1.0	0.0	1.0	介護職の健康管理 ストレスマネジメント 感染予防対策	介護職が自身の健康管理をしていくうえでの工夫について理解できている。 介護職の健康管理やストレスマネジメントのあり方、留意点を理解できている。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
到達目標	<p>○介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p> <p>○介護と医療の連携、介護職のできる行為について理解できる。</p> <p>○リハビリテーションの理念を理解し、介護職の役割を理解できる。</p>				
指導の視点	<p>○介護保険制度と障害福祉制度を担う一員として介護保険制度の理念に対する理解を徹底させる。</p> <p>○介護職と医療職、リハビリ職、その他専門職は専門性が違う。そのため、利用者を捉えるときの視点や優先順位が異なるが、異なるから意味がある。いろいろな視点で利用者を捉えることができることを強調する。相手の専門性を知り、相手に伝わる伝え方を身につける必要がある。</p> <p>○介護職だけで利用者の自立した生活や生活の質を維持・向上させることはできないことを理解させる。</p>				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護保険制度	3.5	1.0	2.5	介護保険制度創設の背景、目的、理念 介護保険制度利用の仕組み、財源	介護保険制度の概要を理解できる。 高齢者を支える制度、介護サービスについて理解できる
障害福祉制度その他制度	2.5	0.5	2.0	障害者総合支援法の理念、サービス利用の仕組み	障害者総合支援法の概要を理解できる。 障害者を支える制度、サービスについて理解できる。
医療との連携とリハビリテーション	3.0	0.0	3.0	医行為と介護 訪問看護、看護と介護職の連携 リハビリテーションの理念	介護と医療との連携と医行為、介護職が実施できる行為について具体的に理解している。
授業時間数合計	9.0	1.5	7.5		

科目名	介護におけるコミュニケーション技術				
到達目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることを認識する。 ○初任者として最低限の取るべき行動、取るべきでない行動を具体的に理解する。				
指導の視点	○コミュニケーションの言葉の意味、役割、目的の理解 ○介護におけるコミュニケーションの意味を明確に伝える。バイステックの原則等、具体的な技法を実践しながら体験的に理解させる。 ○家族も介護の対象であること、家族との良好な関係は、利用者の安心になり利用者へのケアであることを強調する。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護におけるコミュニケーション	3.0	3.0	0.0	利用者、家族との良好な関係を築くためのコミュニケーション方法 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの方法と留意点	基本的なコミュニケーション方法について理解し実践できる。
介護におけるチームのコミュニケーション	3.0	0.0	3.0	チームにおけるコミュニケーション	チームにおけるコミュニケーションの重要性を理解できる。 家族とのコミュニケーション方法と留意点を理解できる。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	老化の理解				
到達目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。				
指導の視点	○老化はすべての人が経験する自然な変化であることを明確に伝える。 ○老化というと様々な機能低下をすぐに思い浮かべるが、プラスのことはないか考えてみる→成熟とも言える。 ○心身の変化に関する基礎知識と介護職としての観察ポイント。				
授業項目	時間数	通学	通信		学習のポイント
老化に伴うところとか からだの変化と日常	3.0	3.0	0.0	老化と老年期の特徴。 化に伴う心身の変化と日常生活への影響	老 老化と老年期の特徴について理解できる。 老化に伴う心身の変化と日常生活への影響について理解できる。
高齢者と健康	3.0	0.0	3.0	高齢者に多い疾病と治療、生活上の留意点	高齢者に多い疾病の症状、治療、生活上の留意点について理解できる。
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	認知症の理解				
到達目標	○認知症を理解することの必要性がわかり、認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を理解している。 ○認知症利用者の家族の抱える困難、状況について理解する ○介護職と家族がともに認知症利用者を支えるパートナーであることを理解する				
指導の視点	○介護職が認知症を正しく理解することが重要であり、認知症高齢者を取り巻く現状とこれまでの認知症ケアのあり方、今の認知症ケアのあり方の違いを比較して整理する ○BPSDの正しい理解 ○家族が抱える介護負担。レスパイトケアの具体的な視点方法を知る				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
認知症を取り巻く状況	1.0	1.0	0.0	認知症ケアの背景と基本的視点	認知症ケアの理念を理解できている。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.0	0.0	2.0	医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	認知症の基礎知識と介護の原則を理解している
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.0	2.0	0.0	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の心理、行動のポイントを理解し、介護の留意点ができる
家族への支援	1.0	0.0	1.0	家族の抱える困難、介護負担、レスパイトケア	認知症利用者を持つ家族のストレスや困難について理解している 家族を具体的に支えるサービス、支店について理解する
授業時間数合計	6.0	3.0	3.0		

科目名	障害の理解				
到達目標	○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解する。 ○障害のある方への介護のあり方について考える。				
指導の視点	○障害者に対する虐待、差別、偏見。差別心や偏見は誰にもありえることを理解。 ○ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの内容を知り、身体的、物理的障害だけを指していないことを理解させる。 ○事例を用いながら、障害を持つ利用者とその家族の置かれている状況、心理面を理解する。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
障害の基礎的理解	0.5	0.0	0.5	障害の概念とICF、障害福祉の基本理念	ICFに基づいた障害の概念を理解できる。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5	0.0	0.5	身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能障害	障害の原因となる主な疾患について理解できる。
家族の心理、かかわり支援の理解	2.0	1.5	0.5	家族の心理、かかわり支援の理解	障害のある方の家族への支援の必要性について理解できる。
授業時間数合計	3.0	1.5	1.5		

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術				
到達目標	○介護技術の根拠となる必要な人体の構造や機能を理解し、ボディメカニクスに基づいた体の使い方が実践できる。○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮しながらその人の望む生活を支える介護技術や知識を習得する。				
指導の視点	○介護サービスを展開するにあたって、こころとからだのしくみの基礎的理解を深め根拠に基づいた援助でできるように繰り返し演習を行う。 ○科目ごとの場面に応じた援助を組み合わせ、生活の中での総合的な支援が実施できるように事例を用いて具体的な援助方法を考えさせ、実践できるように指導する。				
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等	学習のポイント
介護の基本的な考え方	2.0	1.0	1.0	理論に基づく介護 法的根拠に基づく介護	介護福祉士の専門性について理解する。理論や法的根拠に基づく介護の基本的な考え方について理解する。ICFの構成要素と視点について理解する。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4.0	1.5	2.5	学習と記憶の基礎知識	学習と記憶の意味や種類について理解する。
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6.0	5.0	1.0	人体の各部の名称に関する基礎知識 骨・関節・筋と動きに関する基礎知識とボディメカニクスの活用 神経、自律神経と感覚器、内部器官に関する基礎知識 生命の維持・恒常のしくみ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解できている。 からだのしくみの基礎的な知識と介護の流れが理解できている。
生活と家事	5.0	2.0	3.0	家事と生活の理解 家事援助に関する基礎知識と留意点	介護職が行う家事援助について理解できている。 家事援助の機能と基本原則について理解している。

快適な居住環境整備と介護	4.0	0.0	4.0	<p>快適な居住環境に関する基礎知識</p> <p>高齢者・障害者のための居住環境整備</p> <p>福祉用具に関する留意点と支援方法</p>	<p>住環境を整えることが、自立した生活や介護予防、精神的安らぎにつながることを理解できている。</p> <p>利用者それぞれの身体状況に合わせた介護や環境整備のポイントを理解できている。</p>
整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	<p>身じたくに関する基礎知識</p> <p>身じたくの支援技術（洗面、整髪、ひげ、爪の手入れ、化粧の介助、衣服着脱）</p>	<p>身じたくの意義と目的を理解できている。</p> <p>身じたくに関する基本的な介護技術の原則を理解し、実践できる。</p>
移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	10.0	10.0	0.0	<p>移動・移乗に関する基礎知識</p> <p>利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援</p>	<p>移動・移乗に関するところとからだのしくみを理解できる。</p> <p>自立した生活に向けた移動・移乗の介護方法を理解し、実践できる。</p>
食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	<p>食事に関する基礎知識</p> <p>食事環境の整備と食事に関連した用具・食器の活用方法</p> <p>食事介助の方法</p> <p>口腔ケア</p>	<p>食事の意義を理解できている。</p> <p>食事に関する環境整備のポイントを理解し、具体的にあげることができる。</p> <p>安全で自立に向けた食事介助の方法を理解し、実践できる。</p>
入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	<p>入浴・清潔保持に関連した基礎知識</p> <p>清潔保持の方法と福祉用具の活用</p> <p>快適な入浴を阻害する要因の理解と支援方法</p>	<p>入浴・清潔保持の意義を理解できている。</p> <p>入浴・清潔保持に関するところとからだのしくみを理解し、基本的な介助方法について理解し習得できている。</p> <p>安全で快適な入浴環境の整備と入浴支援について理解できている。</p>
排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	<p>排泄に関する基礎知識</p> <p>排泄環境の整備と関連する用具の活用方法</p> <p>爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法</p>	<p>排泄の意味と排泄に関係するところとからだのしくみを理解できている。</p> <p>排泄環境に関連した用具を理解できている。</p>

睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0.0	<p>休息・睡眠に関する基礎知識</p> <p>睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法</p> <p>快い休息・睡眠を阻害する要因の理解と支援方法</p>	<p>睡眠の意味と睡眠に関係するところとからだのしくみを理解できている。</p> <p>安眠を促す睡眠環境に整備と介護の方法について理解し、具体的に述べることができる。</p> <p>心地よい睡眠を阻害する要因と支援方法を理解する。</p>
死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	2.0	2.0	0.0	<p>人生に最終段階に関する基礎知識</p> <p>生と死の支援</p> <p>死に向き合うところの理解</p> <p>苦痛の少ない死への支援</p>	<p>死を迎える人のところとからだの変化を理解できている。</p> <p>死を迎える人とその家族との関わり方を理解できている。</p> <p>終末期におけるケア方法を具体的に理解し習得できる。</p> <p>終末期ケアにおける介護職の役割と多職種との連携について理解できている。</p>
介護過程の基礎的理解	2.0	2.0	0.0	<p>介護過程の目的・意義・展開</p> <p>介護過程とチームアプローチ</p>	<p>介護過程の目的・意義・展開について理解できている。</p> <p>介護職に求められる介護過程の考え方を理解できている。</p> <p>介護過程の展開に基づいた支援の意味を理解できている。</p> <p>介護過程とチームアプローチの重要性を理解できている。</p>
総合生活支援技術演習	10.0	10.0	0.0	<p>事例を通じた実技演習</p> <p>援助技術の活用方法</p>	<p>事例を用いて実施する演習の中で、学んだ援助技術をどのように生かしていくのかを総合的に理解する</p>
授業時間数合計	75.0	63.5	11.5		

振り返り	3.0	3.0	0.0	学習した各科目の整理 介護職が目指すべき姿は何かを討議	今までの学びを振り返り知識を定着させる 学んだ内容を踏まえ自身が目指す介護職像をイメージする
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.0	1.0	0.0	今後の学習ポイント キャリアアップを踏まえた目標の設定	キャリアアップが質の高い介護サービスに繋がることを理解する。 今後の自身の目標を定め、目指すべき方向性を可視化する。
授業時間数合計	4.0	4.0	0.0		